

趣旨説明

日本では毎年多くの土砂災害が発生しています。

土砂災害防止広報センターは「土砂災害についての正しい知識を人々に伝える」ことを仕事としてしています。

災害から人々の命や暮らしを守るためには、その災害について正しく知り、正しく備えることが大切です。災害や防災について知らせるパンフレットや映像など、いわゆる防災広報ツールは、いろいろな防災機関が制作して広報しています。子供にもわかるようにイラストや漫画を使ったツールもあります。

しかし当然のことながら、災害は常に何らかの被害や犠牲者を伴うものである以上、明るく楽しい性格のものではありません。

特に土砂災害の場合、防災啓発ツールでは土砂災害の破壊力の大きさや被害の悲惨さを強調することが多く、土砂の茶色や岩の灰色など、視覚的に暗いものになりがちです。

こうしたイメージは誤りではありませんが、過度にそればかりを強調されると、人々に「もう見たくない、知りたくない、関わりたくない」という印象を与えてしまい、むしろ防災啓発とは真逆の結果を招きかねません。

防災啓発の第一歩は、まずは災害の存在を知ってもらい、興味を持ってもらうことにあります。であれば、「恐ろしい、悲しい」だけでなく、「怖いけれど興味がわく、もっと知りたい」と関心を抱かせるようなアピールの仕方もあってよいのではないか、場合によっては「面白さ、おかしさ」を感じさせる要素も必要ではないか。

その手始めに、誰もが土砂災害に興味を持てるような、今までに無いキャラクターを作ってみようと考えました。

この演劇は、もちろん学習指導要領に沿った内容にすることも可能ですが、前述のとおり親しみやすさを重視し少しでも興味や関心を惹くための防災教育の手法です。

新型コロナの影響で社会全体、あるいは地域の生活環境が復帰していません。このような中でも自然災害は発生します。

今回のオンラインでの交流学习のスタイルは、とても大切な機会を持たせることができると考えています。

2021.2.13 NPO 法人 土砂災害防止広報センター 山本賢一郎